

# 子どもの学びを支えるリフレクションに関する考察

—まなびの時間の実践から—

山田 尚平<sup>1</sup>・岡崎 浩幸<sup>2</sup>

## Student Reflections Facilitating Learning

—The Practice of “Manabi time”—

Shohei YAMADA, Hiroyuki OKAZAKI

E-mail: john\_q\_heey@yahoo.co.jp

### 【摘要】

本研究では、中学生がリフレクション活動「まなびの時間/まなびノート」をどのように体験していたのかを捉え、探索的にモデル（仮説）を生成した。その結果、《感情の動き》、《自己変容》、《メタ視点》といった3つの性質（コア・カテゴリー）が、生徒達にとってまなびの時間/まなびノートシステムの基軸に位置付けられていることが明らかとなった。

キーワード： 中学校 リフレクション活動 対話 帰りの会 質的研究

Keywords : Junior high school, Reflection, interaction, Afternoon homeroom, Qualitative research

## 1. 研究の背景

### 1.1 社会に生きる学力という視点

文部科学省は、育成すべき資質・能力を以下のような三つの柱で整理することと考えた。教育課程には、発達に応じて、これら三つをそれぞれバランスよくふくらませながら、子どもたちが大きく成長していけるようにする役割が期待されており、各教科等の文脈の中で身に付けていく力と、教科横断的に身に付けていく力を相互に関連付けながら育成していく必要があるとしている（表1.1）。

表1.1 育成すべき資質・能力（教育課程企画特別部会 論点整理 2015）

- |  |
|--|
| ①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」<br>②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」<br>③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」 |
|--|

そして人生を主体的に切り拓くための学びとして、子供たちに社会や職業で必要となる資質・能力を育むためには、「学校と社会との接続を意識」し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す「キャリア教育」の視点の必要性を挙げた。学校教育に「外の風」、すなわち変化する社会の動きを取り込み、「世の中と結び付いた授業等」を通じて子供たちにこれからの人生を前向きに考えさせることが、主体的な学びの鍵となる（中央教育審議会 2015）。

市川（2015）は、社会に生きる学び方とその支援について述べ、「学校での学習で子どもたちが学んでいることは、社会でどのように生かされるのか。」という問いに対し、以下の二つの立場を示した（表1.2）。

表1.2 実質陶冶と形式陶冶

- |   |
|---|
| ① 実質陶冶 … 学習内容が直接的に社会生活の中で使われるという立場<br>② 形式陶冶 … 学習の過程で身に付けた思考力や学習方法等が社会に出てからも使われるという立場 |
|---|

<sup>1</sup>富山市立三成中学校教諭

<sup>2</sup>富山大学大学院教職実践開発研究科

学びの過程で、子どもたちは「メタ学習」を通し、学習とはどのような営みで、どのようなやり方が効

果的なのかを学ぶことができ、それは社会に出てからさまざまな学習をするときにも生かされると考えられる。

また、デューイ（2004）は「経験とは何か？」という論述の中で、真実の教育はすべて、経験をとおして生じるとし、経験の質について以下のような2つの側面（表 1.3）を述べた。

表 1.3 経験の質についての2つの側面

①	直接的な側面 … それが快適なものであるか、不快なものであるか
②	経験がその後の経験にどのように影響を及ぼすかという側面 … 経験の効果は、その表面には現れ出ない。経験が未来により望ましい経験をもたらすことができるよう促すためには、直接的な快適さをはるかに越えた種類の経験が求められることになる。

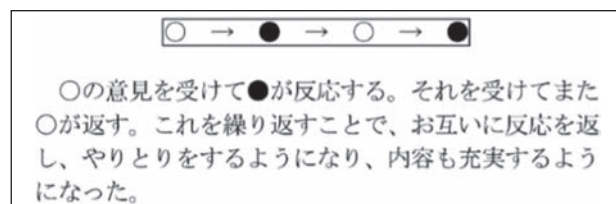
そしてこのような質的経験を整えることこそ、教育者に課せられた仕事であると考えられるようになった。

## 1.2 メタ認知とリフレクション

大島ら（2019）はメタ認知について、自分で自分が何を感じているか、どうしてそのように考えているかを別の視点からモニターして、行動を改めたりすることができる機能を果たす人間の認知の働きであると述べ、大島ら（2019）は、リフレクション（内省、省察）を育むためには、それを学び手自身が行い、教師が支援しながら少しずつ上達するように援助する必要があると指摘している。また、奈須（2017）は、CCR（Center for Curriculum Redesign）が2015年に示したモデルを挙げ、知識（Knowledge）、スキル（Skills）、人間性（Character）に加え、四つ目の次元として、メタ学習（Meta-Learning）を位置づけている。「省察」についてはOECDの議論でも、常に学力論の中核または基底をなす最重要の要素として位置づけられてきた。自分が進めている学習が今どうなっているのかをもう一人の自分が正確にモニターし、時に立ち止まって、このままでいいのか、どうすればよりよくなるのかと問い直し、あるいはどんな意味や価値があるのかを振り返るといった、慎重で思慮深い俯瞰的視点を可能とする能力であり、態度や習慣である。市川（2015）は、日常的な教科の授業そのものの中に、メタ学習を促すような仕組みが必要だと述べ、教科学習でのメタ学習を促すような具体的かつ効果的な方法の開発が急

務であると指摘した。足立（2019）は、学級集団を土台に自信がもてる生徒を育むために、帰りの会の継続的な振り返り活動（フィードバックと内省化）を中学校で実施し、振り返り（フィードバック、内在化）を通して自分の取組や影響力に気づかせることをねらいとした。また足立は、帰りの会で振り返り活動を行う際はペアトークを活用し、一方が話したテーマについて質問やコメントを返し合うことで対話内容を深めた（図 1.1）。

図 1.1 ペアトークの方法



そこで第1筆者は、子どもたちの学びを捉えていくという考えをもとに、社会に生きる学びを中学生の中に育むため、メタ認知とリフレクションの考えを取り入れた学級活動を実施するのが有効であると考えた。その際、多忙な学校現場において実施可能な活動にするため、足立（2019）が実践した帰りの会における振り返り活動の方法を参考にしながら、5分ほどの短時間で実施でき、年間を通して継続していきやすいリフレクション活動「まなびの時間」を提案していきたい。

## 2. 研究の目的と方法

### 2.1 研究の目的

本研究は、中学生がリフレクション活動「まなびの時間」をどのように位置付け、体験していたのかを捉え、探索的にモデル（仮説）を生成することを目的とする。またそれを通じてより機能的・効果的なリフレクション活動とするための改善点を考える。

### 2.2 研究の方法

#### 2.2.1 対象者

富山県のA中学校に在籍する生徒22名（男子12名、女子10名）を対象とした。A中学校は3学年合わせて7学級（特別支援級1学級含む）の小規模校である。対象となる22名は筆者が担任をしている学級の生徒である。

## 2.2.2 実施時期と実施内容

生徒たちがリフレクション活動「まなびの時間」を行った時期は令和2年4月から11月の8か月間である。「まなびの時間」は週に3回行い、第1筆者は生徒たちがどのようにリフレクション活動を行っているかを詳細に観察するため、まなびの時間において生徒同士が対話した内容の発言記録をとったり、生徒が記述したまなびノートの内容を記録したりした。以下の表2.1は「まなびの時間」の主な実施内容である。

表2.1「まなびの時間」の主な実施内容

月	4月	5月	6月	7月
実施内容	まなびノートの説明		まなびの時間の説明	
	まなびノートの記入(毎日)	まなびノートの記入(毎日)	まなびノートの記入(週に3回)	まなびノートの記入(週に3回)
			まなびの時間(週に3回)	まなびの時間(週に3回)
		まなびノート振り返り		
				まなびを絵で表現
月	8月	9月	10月	11月
実施内容	まなびノートの記入(週に3回)	まなびノートの記入(週に3回)	まなびノートの記入(週に3回)	まなびノートの記入(週に3回)
	まなびの時間(週に3回)	まなびの時間(週に3回)	まなびの時間(週に3回)	まなびの時間(週に3回)
	まなびの時間振り返り	まなびの時間振り返り	まなびの時間振り返り	まなびの時間振り返り

## 2.3 研究の進め方

### 2.3.1 分析枠組み

本研究では仮説生成を目的としているため、その目的に照らし、ノートの記述データをもとにモデル構築するのに適したSCQRM[構造構成的質的研究法](西條2007)を分析の枠組みとして採用した。

### 2.3.2 分析手続き

まずノートの記述データをテキスト化した。その後、テキストの分析テーマに関連する箇所に着目し、類似した部分を具体例(ヴァリエーション)として集め、概念名を付けた。概念名とその定義、具体例を分析ワークシートにまとめ、概念を生成した。分析ワークシートとは、概念名、定義、具体例や分析の視点を書き留める理論的メモからなるもので、1概念につき、1ワークシートの形式で作成した(表2.2)。

表2.2 分析ワークシート例

概念名	成長の実感
定義	自身の具体的な成長を振り返り、それに対して肯定的な価値付けをしているもの
ヴァリエーション(具体例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・またもう一つあってそれはだいたい漢字を使うようになったことです。これは成長したと思います。</li> <li>・それに期末テストや日々の授業を受けて少しずつ成長してきていると実感があるし来年受験生なので9月からも頑張ります。</li> <li>・昨日の8月30日はソフトテニスの試合がありました。大人・高校生の人も出る大会で結果は負けただけとても楽しくて成長できた試合だったと思います。</li> </ul>
理論的メモ	「学校生活への手応え」と同カゴテリー?

## 3. 「まなびの時間」の実践

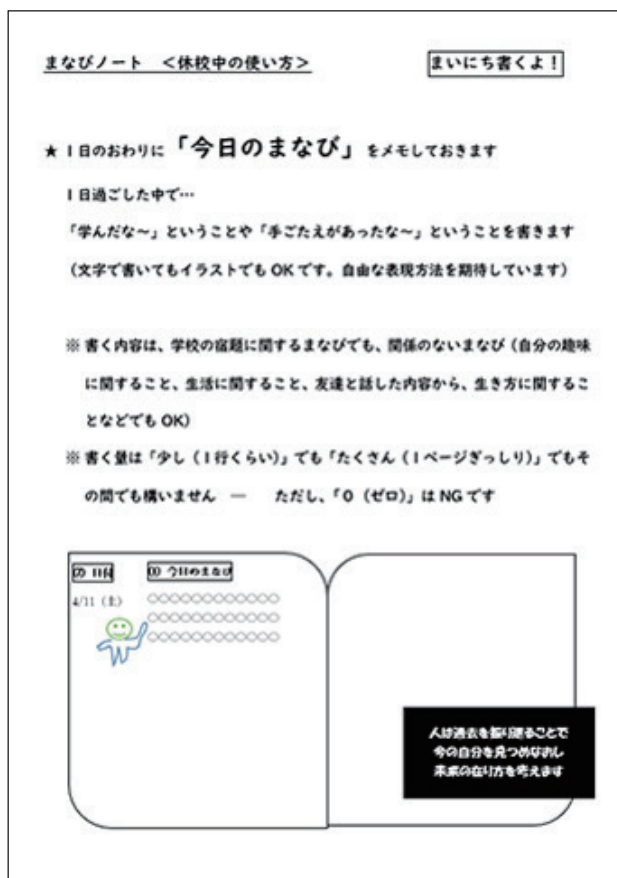
### 3.1 まなびノートの導入(4月10日学活)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月から6月の約2ヵ月間は休校の措置が取られ、学校内における教育活動が停止することになった。そこで休校前の学活でまなびノート(写真3.1)の書き方を説明し、休校中の2ヵ月間、生徒達には自宅でリフレクション活動を行うよう伝えた。休校中のリフレクション活動についてはワークシート(図3.1)を配布し、説明をした。

写真3.1 実際に使用している「まなびノート」



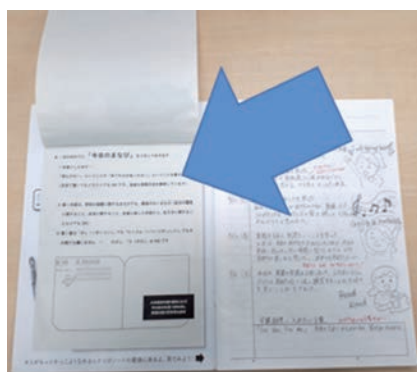
図 3.1 まなびノート<休校中の使い方>



ワークシートをノートの最初のページに貼り付けさせ(写真3.2)、以下のノートを書く際のポイントを確認する時間をとった。

- ・ 毎日リフレクション活動をする。
- ・ 1日の最後に「今日一日の中で手応えを感じたこと・学んだこと」を書いていく。
- ・ 書く内容は、学習に関するだけでなく、生活の中の学び、趣味からの学びなども可とする。

写真 3.2 まなびノートの最初のページに貼った説明用ワークシート



当初計画していたまなびノートの使い方とは違ったものであったが、①休校中の子どもたちの中にリフレクション活動を根付かせることができる、②回収したまなびノートを見ることによって教師が子ども理解を深めることができると考え、まなびノートの記入を休校中の課題の1つとした。

### 3.2 まなびノートの実施(4月11日～5月24日 休校中)

5月末の分散登校の際にまなびノートを回収し、その内容をexcelに記録した。臨時休校のため、担任である私と22名の生徒たちが顔を合わせたのは年度初めのほんの数日であり、それぞれの生徒がどのような性格で、どのような教育的背景の中にあるかがまったく分からない状態で休校期間が過ぎていた。休校明けに回収したまなびノートの記述を見る中で、子どもたちがこの休校中の2か月間、家庭で生活をしていく際に①何を学び、②何を感じ、③何に興味を示しているかについてノートを読むことで理解することができた。以下は、生徒たちが休校中に書いたまなびノートの内容をまとめたものである(表3.1)。

表 3.1 休校期間中のまなびノート 主な記述内容

生徒名	まなびノートの主な記述内容	備考
生徒A	学習、健康、家族	・一言で格言風に記述している ・「改めて毎日生きていることが幸せと知った」5/4
生徒B	学習、休校、コロナ、ゲーム	
生徒C	格言、雑学、哲学、生活、趣味	・事実から捉えた自分の考察をいれているものが多い前半 ・雑学から自分ごとへ 後半 ・「友達とかみんなと勉強したほうが勉強が捗ると思った。それが学校でみんなで授業を受ける理由だと思った。」4/10
生徒D	学習、祖父の手伝い	
生徒E	手伝い、学習、運動、休息	
生徒F	(記述無し)	
生徒G	学習、趣味、手伝い、学校再開	・事実描写が多いが、「表情のマーク」を使って、まなびと心の関連を記述した
生徒H	(記述無し)	

生徒I	コロナ、学習、手伝い、健康	
生徒J	(記述無し)	
生徒K	読書、趣味、調理	・事実に対する考察あり ・前日の学びから翌日の学びにつなげる 5/7-8 ・「身をもって学びました」 5/9 ・「生活に根づく」 5/13,22
生徒L	学習、運動、海	
生徒M	早寝早起き、学習、手伝い、健康	
生徒N	学習、哲学、生活、趣味	・今日の反省から明日の目標を決める記述多い 4/26 など 「生かす」という言葉 「失敗を生かして」 4/21 今日に生かす 5/18 ・趣味と生き方をつなげる記述 4/19,30 5/1 ・経験を積む 5/23
生徒O	学習、生活、趣味	・日常生活から学びを見つける記述多い
生徒P	生活、趣味、イラスト	
生徒Q	友達、趣味、何もない	
生徒R	学校、時事、学習、生活	
生徒S	健康、趣味、生活	・失敗ばかりだったけど楽しかった 4/20
生徒T	運動、学習、生活	
生徒U	生活、生き方、学習	・毎日、記述の横にイラスト
生徒V	学習、生活、生き方	・事実を捉えたのち、自分の考えを記述しているものが多い 4/14

3.2)。そのモデル内では、〈学びの確認〉〈学びに伴う感情〉〈価値観の見つめ直し〉〈今後への思い〉という4つのカテゴリーと、〈感情の動き〉〈自己変容〉という2つのコア・カテゴリーが抽出された。

表 3.2 分析ワークシート 休校明けの振り返り(一部)

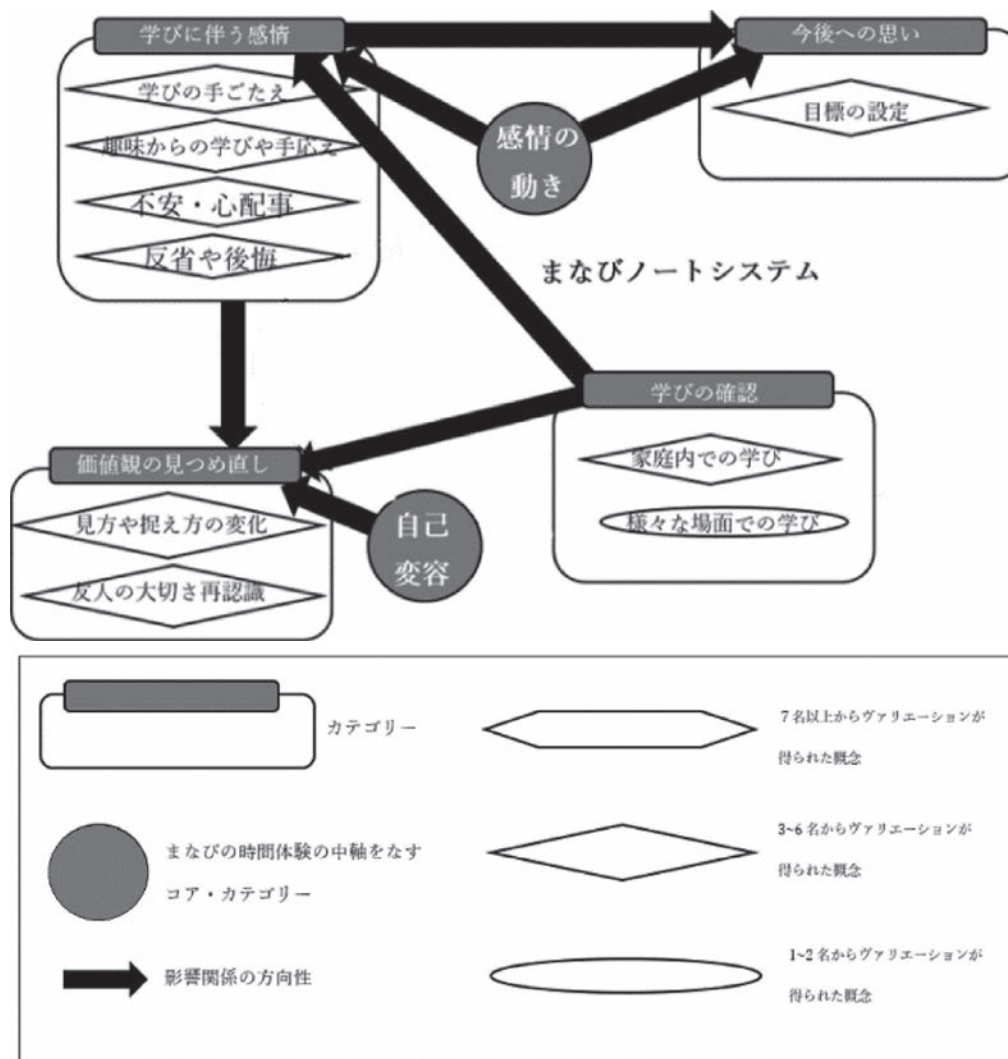
概念名	家庭内での学び
定義	休校中に家庭内で生活するにあたって学んだこと
ヴァリエーション(具体例)	・1か月間、いろいろなことを学んだ。 ・自粛期間中は夜ご飯を姉とつくったのですごく勉強(料理)になりました。 ・1か月間食べものの魅力を学びました。 ・普段学校に行っていたら気づかないことをたくさん学べた。 ・また人から指示されなくても自分から行動することの大切さを学びました。 ・今月に僕が学んだことは課題はこまめに進めること。もう一つは寝ることの大切さ。
理論的メモ	「様々な学び」から概念名を変更
概念名	見方や捉え方の変化
定義	リフレクション活動を行うことによって、今までと比べてもの見方が変化したことがわかるもの
ヴァリエーション(具体例)	・1か月前より普段の考え方や物事の見方などが変わりました。 ・いつも何も考えずに食べているものが、よりおいしく感じました。 ・なんにもない日常も考え方が変わると少しぜいたくな日常になりました。 ・学校に行くのが嫌だな~と思うことが多かったけれどやっぱり学校はみんなと会える大切な場所なのだと思いました。 ・普段学校に行っていたら気づかないことをたくさん学べた。 ・まなびノートのおかげで少し成長した気分になっています
理論的メモ	ゲーム、ものづくり、SNS、製菓、食事を趣味として分類
概念名	不安・心配事
定義	休校によって引き起こされる不安や心配なこと
ヴァリエーション(具体例)	・学校がないとこんなに勉強が遅れる。 ・友達に会えないとこんなにさびしいと心ですごく思った。 ・運動不足にもなるし友達にも会えないしだんだん体に疲れがたまって心が疲れました。

### 3.3 まなびノートの振り返り(5月25日 学活)

休校明けの学活の時間を使い、まなびノートの活動を振り返る時間をとった。生徒たちは約2カ月間書いたノートを読み返し、自宅で過ごした生活を思い出しながら、それぞれが振り返りを書いた。

休校中における生徒たちのリフレクションの様子を捉えるために、生徒たちのノート記述をSCQRM[構造構成的質的研究法](西條 2007)を用いて分析し、まなびノートの記述から表3.2のような分析ワークシートを作成した。その分析ワークシートを基に、まなびノート体験のモデルを作成した(図

図 3.2 まなびノート体験のモデル 休校明けの振り返り



＜学びの確認＞カテゴリーは「家庭内の学び」、  
「様々な場面での学び」という2つの概念から構成  
されている。「家庭内の学び」のヴァリエーション  
として生徒Eの「今月に僕が学んだことは課題は  
こまめに進めること。もう一つは寝ることの大切  
さ。」等が挙げられ、家庭において学んだことや大  
切だと感じたことなどについての記述がみられた。  
「様々な場面での学び」のヴァリエーションは生徒  
Aの「生活やTVや勉強からたくさん学ぶことが  
できた。」等が挙げられ、学んだ場面や機会に着目  
した記述がみられた。

＜価値観の見つめ直し＞カテゴリーは「見方や捉  
え方の変化」、「友人の大切さ再認識」という2つ  
の概念から構成されている。「見方や捉え方の変  
化」のヴァリエーションとして生徒Oの「なんにも  
ない日常も考え方が変わると少しせいたくな日常  
になりました。」等が挙げられ、これまで当たりま  
えだっ

た日常を異なる視点からとらえている記述からな  
っている。「友人の大切さ再認識」のヴァリエー  
ションは生徒Pの「学校に行くのが嫌だな～と思  
うことが多かったけれどやっぱり学校はみんなと  
会える大切な場所なんだなと思いました。」等が  
挙げられ、学校へ行くことなどの価値について考  
えが及ぶようになってきている。

＜学びに伴う感情＞カテゴリーは「学びの手  
応え」、「趣味からの学びや手応え」、「不安・  
心配事」、「反省や後悔」という4つの概念から  
構成されている。「学びの手応え」のヴァリエー  
ションとして生徒Jの「英語以外に数学や国語も  
大変だったけどがんばって終わらせたので良かっ  
た。」等が挙げられ、リフレクション活動を行う  
ことによって反省や後悔を感じたという記述が  
みられた。「不安・心配事」のヴァリエーション  
は生徒Sの「運動不足にもなるし友達にも会  
えないしだんだん体に疲れがたまって

心が疲れました。」等が挙げられ、休校によって引き起こされた不安や心配なことの記述がみられた。

〈今後への思い〉カテゴリーは「目標の設定」という概念から構成されており、そのヴァリエーションとして生徒Mの「休みのときは生活リズムがくずれたので、これからは休みの時も努力し目標を見つけ行動していきたい。」等が挙げられ、リフレクション活動を行うことによって目標が設定されたという記述がみられた。SCQRM[構造構成的質的研究法]におけるモデル作成では通常、複数の概念から1つのカテゴリーが構成されるが、本研究においては後に出てくる〈今後への思い〉カテゴリーにおいて複数の概念が抽出されるため、休校中のモデルは1つのカテゴリーに1つの概念という構成を採用した。

モデル内の矢印は影響関係の方向性を表している。休校中のまなびノート体験を通じ、生徒たちは〈学びの確認〉をしていく過程で〈学びに伴う感情〉に気づき、その感情がもととなり〈今後への思い〉を確かにしていったと考えられる。また、〈学びの確認〉をしたり〈学びに伴う感情〉を確認したりすることによって、生徒たちの中で〈価値観の見つめ直し〉へと導かれていったと考えられる。

そしてコア・カテゴリーとして、《感情の動き》と《自己変容》を抽出した。コア・カテゴリーとは、様々なカテゴリーや概念の派生の中心となる枠組みと定義している。つまり、まなびノートを使ったりリフレクションを重ねることによって、自分のプラスの感情やマイナスの感情に気付いたり目標を確実にしたりすることは《感情の動き》がもととなっており、自身に変化していることや今までと違う目線で物事を見ていることは《自己変容》という大きな枠組みで捉えることができる。まなびノート体験の中心にはこれらの核（コア）になるものが存在していると考えた。

### 3.4 まなびの時間の導入（6月3日 終学活）

6月の学校再開後、まなびノートに記述した内容をもとにペアトークを行う「まなびの時間」を開始した（表3.3, 写真3.3, 表3.4）。まなびの時間は月曜、水曜、金曜の終学活の前の数分間を使い、短時間（3分ほど）で行えるものにした。ペアトーク相手は座席の縦ペア、横ペア、授業ペア（英語の授業でのペア）の3種類をローテーションしていくこと

とした。教室の席替えのたびに新しいペアが構成されるため、年間を通じて様々な相手とペアトークをしていくことになる。

表 3.3 「まなびの時間」の流れ

- |   |   |
|---|---|
| ① | Aさんは、まなびノートに書いてある内容をもとに「今日の学び」についてBさんに伝える。  |
| ② | BさんはAさんの学びについて1つ質問し、Aさんは答える。                |
| ③ | AさんとBさんが交代して①②を行う。                          |
| ④ | まなびノートに、「相手から質問されることによって増えた情報」をメモする。(写真3.4) |
| ⑤ | まなびノートを担任に提出する。                             |

写真 3.3 ペアトークの様子



写真 3.4 ペアトーク後 増えた情報をメモ



表 3.4 まなびの時間 ペアトークの内容

<p>7月10日(金)                  生徒E：今日は早く寝ることの大切さを学びました。                  生徒S：遅く起きたの？                  生徒E：早く起きました。                  生徒S：早く起きたらどんなこといい？                  生徒E：準備が早くできるので…。</p>
<p>7月13日(月)                  生徒F：6限では、テスト計画を書けました。計画通りに近づけるように頑張ります。                  生徒D：特に何を頑張りますか？                  生徒F：国、社、歴史は特に課題が多いので、しっかり(課題を)出すようにしたいです。</p>
<p>7月15日(水)                  生徒K：お父さんと話していて、この辺りのダムの管理は北陸電力ではなく関西電力がしているということを知りました。                  生徒M：お父さんとすごい話するんですね。                  生徒K：はい。(笑)</p>
<p>7月17日(金)                  生徒Q：音楽では太鼓のリズムについて学びました。最初はリズムがバラバラだったけど、だんだんと揃ってきてよかったです。                  生徒G：太鼓をする中で何が一番大切だと思いますか？                  生徒Q：ん～、人のリズムを聞くことだと思います。(交代)                  生徒G：音楽で、太鼓のリズムについて学びました。4つの基本打ちを習ったんですけど、覚えるのが大変そうなので、家でも練習したいと思います。                  生徒Q：4つの(基本打ちの)中で一番大変なのはどれですか？                  生徒G：えっと、太鼓の端を叩くやつです。</p>

表 3.4 で示したように、「まなびの時間」における対話リフレクション(ペアトーク)は足立(2019)が実践したように1往復半の短い対話を行うことを基本とした。ペアトーク相手の学びを理解した上で、関連した質問をしなければならないため、この「まなびの時間」の導入期では、「何を質問していいかわからない」「瞬間的に質問を考えなければならないのが緊張する」と話す生徒が数名いた。

### 3.5 まなびの時間/まなびノートの振り返り(8月31日 朝活動)

学校再開から約2カ月が経過した8月31日に、これまでの「まなびの時間/まなびノート」の取組について振り返る時間をとった。生徒たちはそれぞれ、「まなびノート」に振り返りの記入をした(表 3.5)。また休校中のノート分析と同様に、そのノート記述を基に6月～8月のまなびの時間/まなびノートについての分析ワークシート、モデルの作成

を行った(表 3.5, 図 3.3)。

表 3.5 分析ワークシート 6～8月 まなびの時間 /まなびノート (一部)

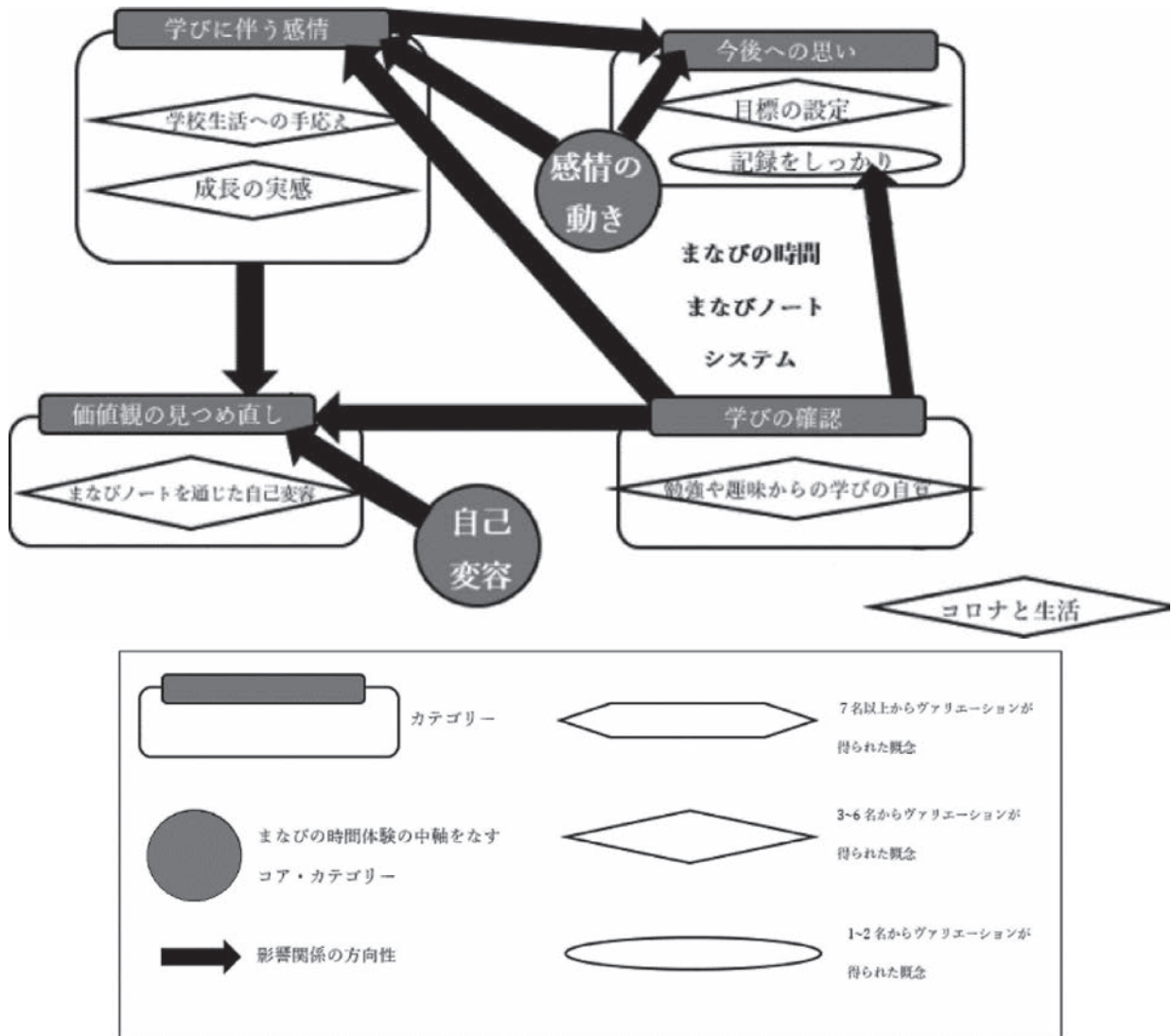
概念名	成長の実感
定義	自身の具体的な成長を振り返り、それに対して肯定的な価値付けをしているもの
ヴァリエーション(具体例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・またもう一つあってそれはだいたい漢字を使うようになったことです。これは成長したと思います。</li> <li>・それに期末テストや日々の授業を受けて少しずつ成長してきていると実感があるし来年受験生なので9月からも頑張ります。</li> <li>・昨日の8月30日はソフトテニスの試合がありました。大人・高校生の人が出る大会で結果は負けただけどとても楽しくて成長できた試合だったと思います。</li> <li>・とても長いようで短い2カ月でした。でも生徒会では初めて心構えを言って間違えや堂々と言うことができ達成感のある日でした。</li> </ul>
理論的メモ	「学校生活への手応え」と同カテゴリー？
概念名	まなびノートを通じた自己変容
定義	まなびノートを書くことによって、過去の自分と比べて変容していることへの記述
ヴァリエーション(具体例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびノートを週に3回(月、水、金)に書くことで、あまり1日を振り返ったことが無かったけど、振り返る時間が増えて、今日は良かったや悪かったなど見返せるので、これからはまなびノートを書いていきたいです。</li> <li>・4～5月に比べて学校での勉強に関する「まなび」を多く見つけられた。</li> <li>1年の頃じゃ気付かなかった「まなび」もノートに書くことで「こんなことを学んだな」と思い出すことができたので良かった。</li> <li>今後の生活にも生かしていこうと思った。</li> <li>・1年生とは違う学校生活のとらえ方があり、成長していきたいです。</li> </ul>

<学びの確認>カテゴリーは「勉強や趣味からの学びの自覚」の概念から構成されている。「勉強や趣味からの学びの自覚」のヴァリエーションとして生徒Kの「6～8月の学びを振り返って、特に多かったのが声優、アニメ、読書についてだと思えます。趣味で調べたり見たり読んだりしているものなので、やっぱり多いなと感じました。」等が挙げられ、勉強や趣味等に関する学びについて気付き、振り返っている記述がみられた。

<価値観の見つめ直し>カテゴリーは「まなびノートを通じた自己変容」の概念から構成されている。「まなびノートを通じた自己変容」のヴァリエーションとして生徒Sの「まなびノートを週に3回(月、水、金)に書くことで、あまり1日を振り返ったことが無かったけど、振り返る時間が増えて、今日良かったことや悪かったことなどを見返せるので、これからはまなびノートを書いていきたい



図 3.3 まなびの時間／まなびノート体験のモデル 6～8月の振り返り



です。」等が挙げられ、まなびノートを書くことによって、過去の自分と比べて変化していることについての記述からなっている。

＜学びに伴う感情＞カテゴリーは「学校生活への手応え」、「成長の実感」という2つの概念から構成されている。「学校生活への手応え」のヴァリエーションとして生徒Nの「とても長いようで短い2カ月でした。でも生徒会では初めて（集会で）心構えを言って間違えず堂々と言うことができ達成感のある日でした。」等が挙げられ、学校生活を送る中で、達成感や手応えがあったことが分かる記述がみられた。「成長の実感」のヴァリエーションは生徒Rの「昨日の8月30日はソフトテニスの試合がありました。大人・高校生の人もある大会で結果は負けたけどとても楽しくて成長できた試合だったと思います。」等が挙げられ、自身の具体的な成長を振り返り、それ

に対して肯定的な価値付けをしている記述である。

＜今後への思い＞カテゴリーは「目標の設定」、「記録をしっかり」という2つの概念から構成されており、「目標の設定」ヴァリエーションとして生徒Gの「また生活リズムが乱れ体調が悪くなったりしたので自分自身をコントロールして頑張りたいです。」等が挙げられ、今後の目標を設定していることがわかる記述がみられた。「記録をしっかり」のヴァリエーションとして生徒Iの「6～8月を振り返ると、あまりまなびノートを書けていないので次からはしっかりと書きたいです。」等が挙げられ、自身の生活をしっかり記録していこうという気持ちが書かれていた。

また、「コロナと生活」の概念はどのカテゴリーにも当てはまらなくと考え、枠外に位置づけた。「コロナと生活」のヴァリエーションとして生徒M

の「コロナで暑い時期もちゃんと対策をして、コロナも熱中症も防げたと思います。」等が挙げられ、新型コロナウイルスと自身の生活の関連についての言及があった。

モデル内の矢印は影響関係の方向性を表している。6月から8月のまなびの時間／まなびノート体験を通じ、生徒たちは<学びの確認>をしていく過程で<学びに伴う感情>に気付き、その感情がもととなり<今後への思い>を確かにしていったと考えられる。また、<学びの確認>をしたり<学びに伴う感情>を確認したりすることによって、生徒たちの中で<価値観の見つめ直し>へと変化していったと考えられる。また、<学びの確認>をすることによって、「記録をしっかりと」していこうという<今後への思い>が生まれたと考えられる。

### 3.6 まなびの時間／まなびノートの振り返り（10月2日 朝活動）

2学期も1学期と同様に「まなびの時間／まなびノート」の実践を週に3回のペースで続けていった。10月2日の朝活動の時間を使って、9月のまなびの時間／まなびノートの取組について振り返る時間をとった。前回（8月31日）のノート分析と同様に、その記述を基に9月のまなびの時間／まなびノートについての分析ワークシート、モデルの作成を行った（表3.6, 図3.4）。

表3.6 分析ワークシート 9月 まなびの時間／まなびノート（一部）

概念名	いろいろな場所や時間に学びは存在
定義	学びはいろいろな場所にあり、どんな日にも存在するということ
ヴァリエーション (具体例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、まなびノートを書いて、色々なところに学びがあるのだと分かりました。</li> <li>・平凡な日でも1つや2つは学ぶことがあるんだと実感できました。</li> <li>・9月は家での学びより学校での学び（部活、授業）の方が多かったと思います。</li> <li>・また、授業に関するまなびも多かったので、10月は授業のまなびも生活の中でのまなびも見つけていきたいです。</li> </ul>
理論的メモ	場所なのに、「日」という概念が不自然？ →「いろいろな場所や時間に学びは存在」概念名を変更
概念名	過去の自分との比較
定義	学びを振り返るなかで、過去の自分と現在の自分を比べているもの

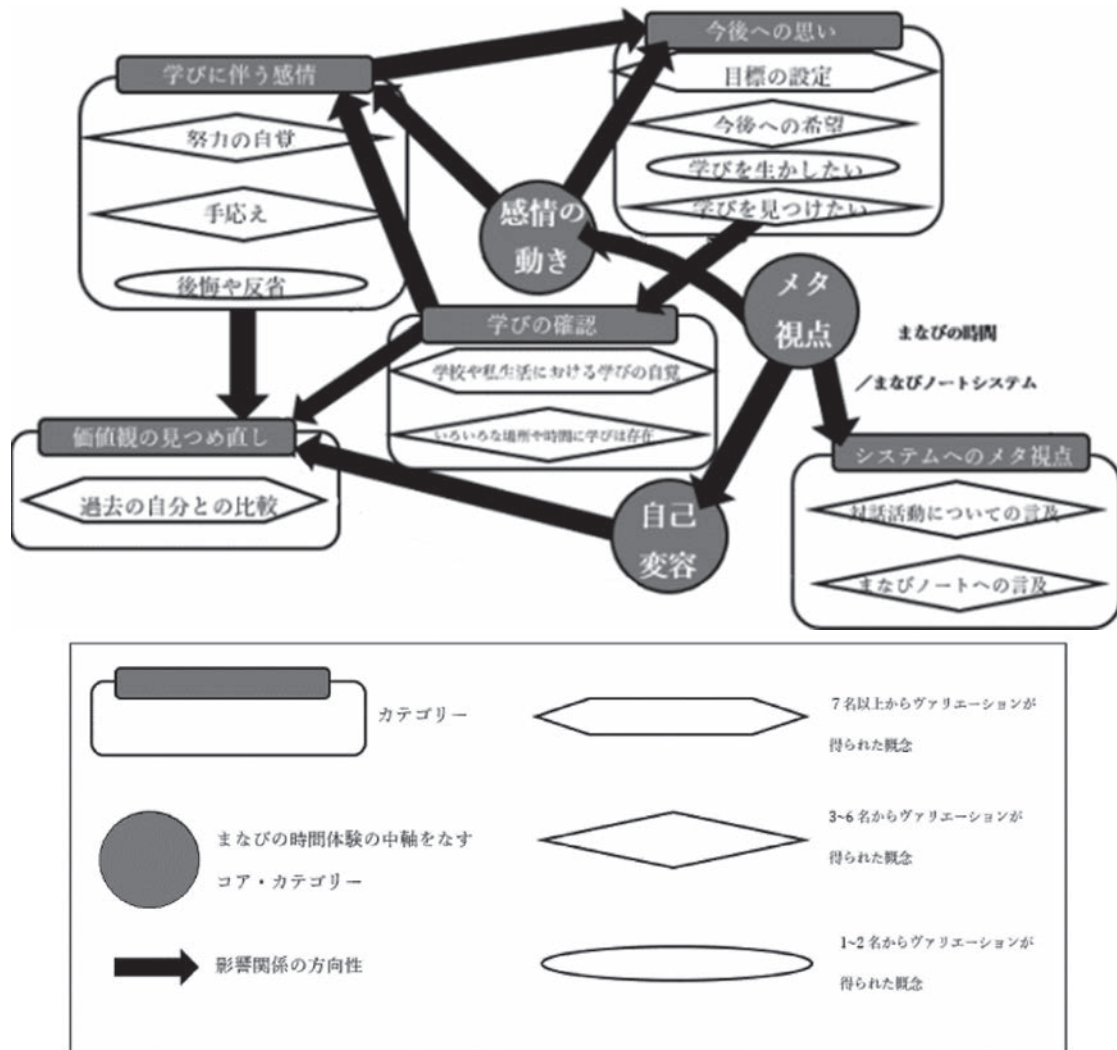
ヴァリエーション (具体例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強のことについてよく書いた。今までよりも勉強に真剣に取り組めているなど感じた。</li> <li>・最初は学びというか、あったことを書いてあるだけだったけどちょっとずつ学びを書いていけるようになったと思います。</li> <li>・特に理科は先生が僕をよく当ててきてくれたのでサボりぎみだった理科も楽しく感じるようになってきました。</li> <li>・9月よりも学びができるように頑張っていきたいです。</li> <li>・9月のまなびノートでは、だんだんと慣れてきてとてもスラスラ書けるようになってきたと思いました。</li> <li>・9月は今までと比べて「手応え」を多く感じました。</li> <li>・最初の方よりもさらにオタク度がブルスウルトラして（い）てびっくりしました。</li> <li>・私は9月の最初の方はあまり嬉しいことが無かったけど、最後の方はとても嬉しいことがあったので良かったなと思いました。</li> <li>・でも書いて（い）るジャンルは、アニメ、マンガ、声優、小説、食べものがほとんどであり変化して（い）ませんでした。</li> </ul>
理論的メモ	前回（8/31）の分析ワークシートに比べ、過去の自分と現在の自分を比べる生徒が増えた

<学びの確認>カテゴリーは「学校や私生活における学びの自覚」、「いろいろな場所や時間に学びは存在」という2つの概念から構成されている。「学校や私生活における学びの自覚」のヴァリエーションとして生徒Eの「9月は確認の大切さや部活での大切なことを学びました。」等が挙げられ、勉強、部活動、日常生活に関する学びに関する記述がみられた。「いろいろな場所や時間に学びは存在」のヴァリエーションは生徒Oの「平凡な日でも1つや2つは学ぶことがあるんだと実感できました。」等が挙げられ、学びはいろいろな場所にあり、どんな日にも存在するという記述がみられた。

<価値観の見つめ直し>カテゴリーは「過去の自分との比較」の概念から構成されている。「過去の自分との比較」のヴァリエーションとして生徒Fの「最初は学びというか、あったことを書いてあるだけだったけどちょっとずつ学びを書いていけるようになったと思います。」等が挙げられ、学びを振り返る中で過去の自分と現在の自分を比べている記述からなっている。

<学びに伴う感情>カテゴリーは「努力の自覚」、「手応え」、「後悔や反省」という3つの概念から構成されている。「努力の自覚」のヴァリエーションとして生徒Nの「9月は特に部活動に力を入れました。3年生さんの最後のコンサートだったので、いつも以上に曲練をがんばりました。」等が挙げら

図 3.4 まなびの時間／まなびノート体験のモデル 9月の振り返り



れ、自身の頑張ってきたことに関する記述がみられた。「後悔や反省」のヴァリエーションは生徒 M の「まなびノートは出来事をもう少し詳しく書いたらよかったなと反省しています。」等が挙げられ、振り返りをする中で、後悔や反省の気持ちをもったという記述がみられた。

＜今後への思い＞カテゴリーは「目標の設定」、「今後への希望」、「学びを生かしたい」、「学びを見つきたい」という 4 つの概念から構成されている。「目標の設定」のヴァリエーションとして生徒 N の「次は私たち 2 年生が部を引っ張っていく立場なので全力で頑張りたいと思います。」等が挙げられ、今後の目標を設定したことが分かる記述がみられた。また、「学びを見つきたい」のヴァリエーションとして生徒 T の「これからは家での学びをたくさん見つけていきたいです。」等が挙げられ、「学び」となるものを自ら見つけようとしている記述から、受

け身の学びでなく、自律的な学びへの自覚が芽生えてきた生徒もみられる。

＜システムへのメタ視点＞カテゴリーは「対話活動についての言及」、「まなびノートへの言及」という 2 つの概念から構成されている。「対話活動についての言及」のヴァリエーションとして生徒 U の「友達は自分とは違う視点で学びを得ていたり、質問も予想外のものが返ってきたりして面白いと感じた。」等が挙げられ、まなびノートを用いた対話活動（帰りの会）に関する記述がみられた。「まなびノートへの言及」のヴァリエーションは生徒 L の「改めて読んでみて、自分のプレーの中で成功したことや、失敗したことが書いてあって、その都度コツなどが書いてあってどんどんサッカーノートみたいになっている。」等が挙げられ、まなびノートの活動に対して振り返る記述がみられた。

そしてコア・カテゴリーとして「感情の動き」

《自己変容》、《メタ視点》を抽出した。まなびの時間やまなびノートを使ったりリフレクションを重ねることにより、自分のプラスの感情やマイナスの感情に気付いたり目標を確実にしたりすることは《感情の動き》がもととなっており、自身が変化していることや今までと違う目線で物事を見ていることは《自己変容》という大きな枠組みで捉えることができる。また、まなびの時間やまなびノートの活動そのものに目を向ける〈システムへのメタ視点〉や、自らの価値観を見つめ直す《自己変容》のもととなっているものが3つめのコア・カテゴリーである《メタ視点》であると考えた。つまり、コア・カテゴリー《メタ視点》を働かせることによって、自分自身の〈自己変容〉や〈感情の動き〉をモニターしていると捉えた。まなびの時間／まなびノート体験の中心にはこれらの3つの核（コア）になるものが存在していると考えた。

モデル内の矢印は影響関係の方向性を表している。9月のまなびの時間／まなびノート体験を通じ、生徒たちは〈学びの確認〉をしていく過程で〈学びに伴う感情〉に気付き、その感情がもととなり〈今後への思い〉を確実にしていったと考えられる。〈学びの確認〉をしたり〈学びに伴う感情〉を確認したりすることによって、生徒たちの中で〈価値観の見つめ直し〉へと導かれていったと考えられる。また、〈今後への思い〉の中の概念である「学びを見つきたい」が今後の〈学びの確認〉への動機付けになると考えた。

### 3.7 まなびの時間／まなびノートの振り返り（11月2日 朝活動）

11月2日の朝活動の時間を使って、10月のまなびの時間／まなびノートの取組について振り返る時間をとった。これまでのノート分析と同様に記述を基に10月のまなびの時間／まなびノートについての分析ワークシート、モデルの作成を行った（表3.8、図3.5）。

また、10月のまなびの時間においては、対話リフレクションの代わりにノートへのコメントを通したりリフレクションを行う方法を数回行った（表3.7）。

表3.7 ノートへのコメントを通したりリフレクションの進め方

①	班（4～5人）の中で、時計回りにまなびノートを開いた状態で渡していくことを指示する。
②	それぞれの生徒は、まわってきたノートを読み、コメントや質問を書き入れたのち、次の人に渡す。
③	②を繰り返していき、1周した自分のノートが返ってきたら、班員に書いてもらったコメントに目を通す。
④	まなびノートを担任に提出する。

表3.8 分析ワークシート 10月 まなびの時間／まなびノート（一部）

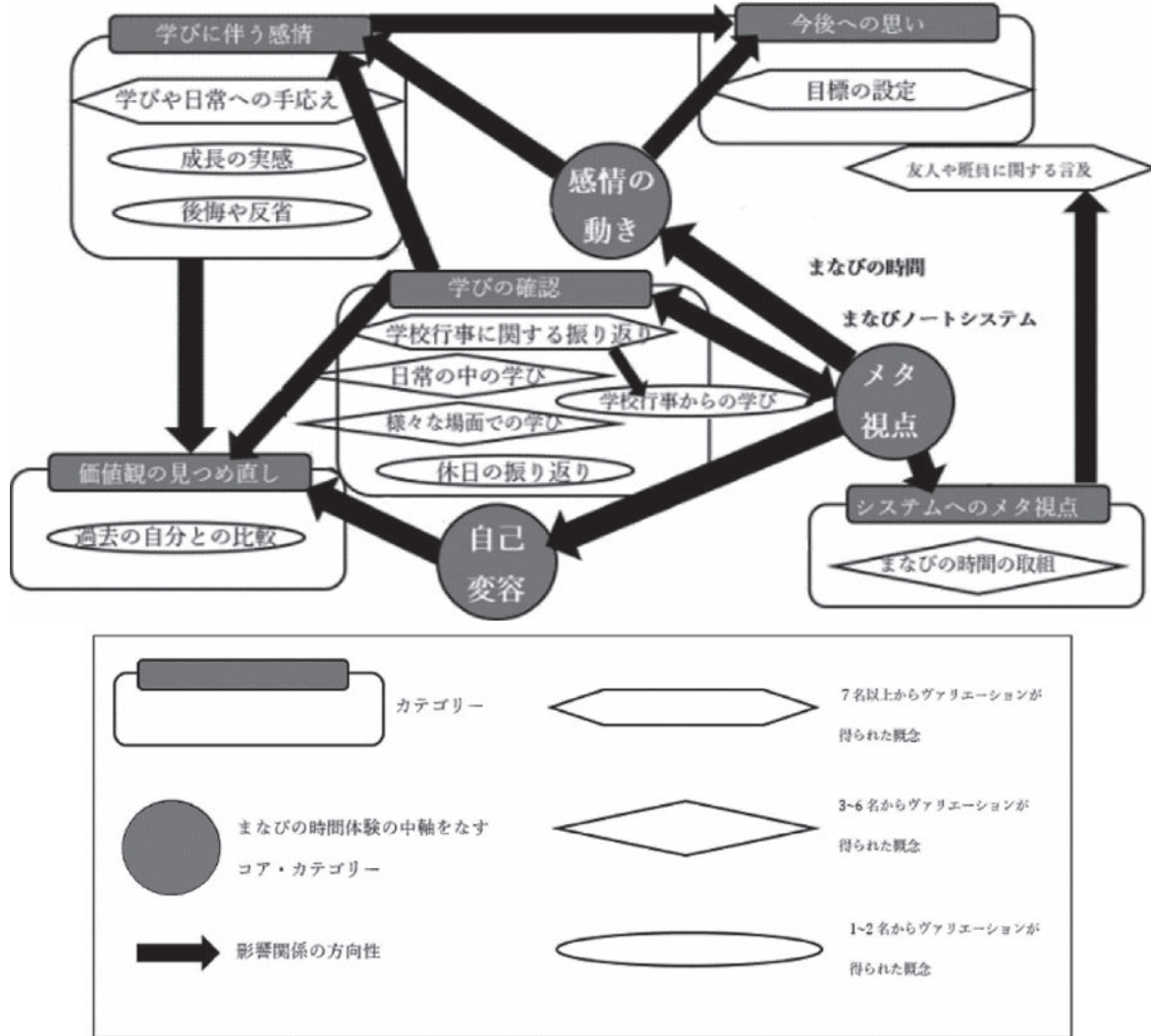
概念名	友人や班員に関する言及
定義	友人の行動や友人との活動に関する記述
ヴァリエーション（具体例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びで友達や自分をこれからも大切にしていこうと思いました。</li> <li>・班の人でまわして読んだので、内容が深まったと思う。</li> <li>・また、班でノートをまわしてコメントするのをしてみて班の人の学びに共感できたので良かったです。</li> <li>・10月は友達と遊びに行くことが多くてとても楽しかったけど、11月は誕生日もあつたりするけど、あまり遊びすぎないようにしたいなと思いました。</li> <li>・全校の前ですばらしい演説をしていて本当にすごいなと思いました。</li> <li>・コメントの書きあいでは、前の人が書いたコメントとかぶらないようにしつつ良いコメントにできるように心がけました。</li> <li>・また相手の学びに対してコメントを書くのが、質問するより難しかったです。</li> </ul>
理論的メモ	「まなびの時間」において、班員同士でノートにコメントを書き合ったことへの記述があった

概念名	日常の中の学び
定義	日常生活の中から得られる学びについての言及
ヴァリエーション（具体例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月を振り返って9月と同じように日常の学びを書くことが多かったです。</li> <li>・日常から学びを見つけている感じがしてきたので良かったです。でも11月からは家での学びや休日からの学びを増やして行って、一日中いつでも学びを発見できるようになりたいです。</li> <li>・身近な学びを見つけるのは少し難しかったのでこれから少しずつ見つけていけるよう頑張りたいです。</li> </ul>
理論的メモ	概念「目標の設定」と重なることが多い

概念名	成長の実感
定義	リフレクション活動を行う中で、自身の成長を感じている
ヴァリエーション（具体例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私的に10月は成長できた月だったんじゃないかと思います。</li> <li>・10月は2つの行事があり、それによってたくさん成長することができました。</li> </ul>
理論的メモ	具体的な記述は無かった どんな所が成長したか、どんな行事か

〈学びの確認〉カテゴリーは「学校行事に関する振り返り」、「学校行事からの学び」、「日常の中での

図 3.5 まなびの時間／まなびノート体験のモデル 10月の振り返り



学び」, 「様々な場面での学び」, 「休日の振り返り」という5つの概念から構成されている。「学校行事に関する振り返り」のヴァリエーションとして生徒Rの「10月はいろいろな行事があったと思います。例えば体育大会・班別学習・生徒会選挙などです。私が時に印象に残ったのは体育大会でした。」等が挙げられ、10月に行った学校行事に関する記述がみられた。「様々な場面での学び」のヴァリエーションは生徒Oの「10月を振り返って9月と同じように日常の学びを書くことが多かったです。」等が挙げられ、学びが得られる場面に着目している記述がみられた。

＜価値観の見つめ直し＞カテゴリーは「過去の自分との比較」の概念から構成されている。「過去の自分との比較」のヴァリエーションとして生徒Kの「9月とかと内容変わっていませんね。まったくっていいほど変わっていませんね。」等が挙げ

られ、過去の自分のまなびノートの内容と現在のものを比較している記述からなっている。

＜学びに伴う感情＞カテゴリーは「学びや日常への手応え」, 「成長の実感」, 「後悔や反省」の3つの概念から構成されている。「学びや日常への手応え」のヴァリエーションとして生徒Gの「10月は2年生が学校を引っ張っていくように変わる期間で何をすればいいか分からなかったけど、自分なりにやることをしてよかったです。」等が挙げられ、学校行事や日常生活で学びを得られたことを肯定的に捉えている記述がみられた。「後悔や反省」のヴァリエーションは生徒Vの「身近な学びを見つけるのは少し難しかったのでこれから少しずつ見つけていけるよう頑張りたいです。」等が挙げられ、自身のできなかったことに関する記述からなっている。

＜今後への思い＞カテゴリーは「目標の設定」の概念から構成されている。「目標の設定」のヴァリ

エーションとして生徒Uの「これからも常に目標をもち昨日よりも1歩前進していきたいです。」等が挙げられ、リフレクション活動を行う中で今後の目標を設定している記述がみられた。

〈システムへのメタ視点〉カテゴリーは「まなびの時間の取組」の概念から構成されている。「まなびの時間の取組」のヴァリエーションとして生徒Oの「また、班でノートをまわしてコメントするのをしてみて班の人の学びに共感できたので良かったです。」等が挙げられ、友達の学びに共感する生徒が見られた。

また、「友人や班員に関する言及」の概念はどのカテゴリーにも当てはまらなく、枠外に位置づけた。「友人や班員に関する言及」のヴァリエーションとして生徒Qの「10月は友達と遊びに行くことが多くてとても楽しかったけど、11月は誕生日もあつたりするけど、あまり遊びすぎないようにしたいなと思いました。」等が挙げられ、友人の行動や友人との活動に関する記述からなっている。

モデル内の5つのカテゴリーをもとに、コア・カテゴリーとして〈感情の動き〉、〈自己変容〉、〈メタ視点〉を抽出した。

モデル内の矢印は影響関係の方向性を表している。10月のまなびの時間/まなびノート体験を通じ、生徒たちは〈学びの確認〉をしていく過程で〈学びに伴う感情〉に気付き、その感情がもととなり〈今後への思い〉を確かにしていったと考えられる。また、〈学びの確認〉をしたり〈学びに伴う感情〉を確認したりすることによって、生徒たちの中で〈価値観の見つめ直し〉へと導かれていったと考えられる。そして、〈システムへのメタ視点〉をもつ中で、一緒に学ぶ仲間に向けて目をつけるようになり、「友人や班員に関する言及」が抽出されたと捉えられる。コア・カテゴリー〈メタ視点〉を働かせることによって、自分自身の〈自己変容〉や〈感情の動き〉をモニターしていると捉えた。また、〈メタ視点〉を働かせることによって〈学びの確認〉を促進させ、〈学びの確認〉が習慣化されることによって〈メタ視点〉を働かせる場面が増えると考え、影響関係の矢印を双方向のものとした。

#### 4. 全体考察

4月から11月の実践とその分析を通して、〈感

情の動き〉、〈自己変容〉、〈メタ視点〉といった3つの性質(コア・カテゴリー)が、生徒達にとってまなびの時間/まなびノートシステムの基軸に位置付けられていると捉えた。〈感情の動き〉という性質から、生徒達は「成長の実感」や「後悔や反省」といった〈学びに伴う感情〉をもつと同時に、「目標の設定」や「学びを見つめたい」という〈今後への思い〉を感じていることが分かった。一方、〈自己変容〉という性質からは「過去の自分との比較」や「見方や捉え方の変化」といった〈価値観の見つめ直し〉を感じていると考えられる。またその〈自己変容〉や、「対話活動への言及」や「まなびノートへの言及」といった〈システムへのメタ視点〉を支える性質として〈メタ視点〉を挙げることができ、このまなびの時間/まなびノートシステムは、生徒たち自身の学びを捉える機会となったと考えられる。

#### 5. 今後の課題と教育的示唆

現行のまなびの時間/まなびノートシステムは有用な側面をもつ一方で、数名の生徒は自身をリフレクションすることに対して不慣れであったり支援が必要であったりすることが分かった。まなびの時間/まなびノートの活動をより効果的にするためには、そんな生徒達の困難を取り除いた形で実施されることが望まれる。

そのための案としては、「①全員が一斉にまなびノートを書く時間を確保する」と「②リフレクションの記述例をより具体的なものにする」というものが考えられる。①まなびノートを書く時間を全体で確保することで、より多くの生徒が自身の学びの手ごたえを明確にした状態で、まなびの時間(対話リフレクション)に参加することができるのではないだろうか。本実践では、まなびノートを記入する時間を確保しているわけではなく、それぞれが帰りの会までにノートを記入しておくというシステムだったので、準備不足のまま対話リフレクションに入っていく生徒がいた。私の勤務する学校の場合は、朝活動の時間をまなびノートの記入の時間にすることができないのではないかと考える。また、②リフレクションの記述例をより具体的なものにすることで、「まなびノートにどんなことを書いたらよいか分からない」という生徒の悩みを軽減できるのではない

かと考えた。本実践では、生徒達はオリエンテーション用のワークシートを参考にしながら、まなびノートを書き進めていた。しかしリフレクションを苦手とする生徒たちにとっては、より具体的な記述例を示すことが有効であったと考える。本実践の中で詳細にリフレクションができていた生徒の記述を、ワークシートに記述例として書き加えることで改善が図られるのではないかと考える。リフレクションをすることや、それを記述することを苦手とする生徒に対して上記のような足場掛けをすることで困難が解消され、より効果的なまなびの時間/まなびノートのシステムの実現に近づくことができると考える。

こうしたまなびの時間/まなびノートのシステムをより機能的なものにするための提案(モデル作成)はリフレクション活動を得意とする生徒のみではなく、それを苦手であったり不慣れであったりする生徒のノート記述や様子を捉えていくことで得られたものであり、本研究を実施した意義は少なくないと言えるのではないか。ただし、今回作成したモデルは暫定的なものであり、今後さらに検討・改善していく必要がある。本研究をもとに、同じく中学生を対象としたまなびの時間/まなびノート体験の実態調査的な研究を行うことで、新たな視点を得られると考える。

#### 【引用参考文献】

- 足立慎吾 (2019)「学級集団を土台に自信がもてる生徒を育む 帰りの会の継続的な『振り返り(フィードバックと内省化)』を通して」愛知教育大学教育実践研究科(教職大学院)修了報告論集(10), 441-450, 2019-03
- 一般法人学び続ける教育者のための協会(REFLECT)編(2019)「リフレクション入門」学文社
- 大島純・千代西尾祐司(編)(2019)「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」北大路書房
- 西條剛央(2008)「ライブ講義・質的研究とは何か SCQRM アドバンス編」新曜社
- 西條剛央(2008)「ライブ講義・質的研究とは何か SCQRM ベーシック編」新曜社
- ジョン・デューイ(2004)「経験と教育」講談社学術文庫

- 中央教育審議会(2015)「教育課程企画特別部会 論点整理」
- 東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会編(2015)「カリキュラム・イノベーション 新しい学びの創造へ向けて」東京大学出版会
- 奈須正裕(2017)「『資質・能力』と学びのメカニズム」東洋館出版社

(2021年5月20日受付)